

1 学校教育目標		
教育目標 ○たくましく生きる力の育成 ○個性豊かに生きる力の育成 ○心豊かに生きる力の育成		
中・長期目標 校訓「自立」の具体化を図り、時代の変化や社会の進展に対応できる人間の育成		
○めざす学校像 ・一人ひとりの夢の実現をめざす。 ・新しい教育スタイルを常に求める。 ・地域社会に貢献できる人材を育てる。		
○育てたい生徒像 「基礎学力」をはじめ、「学ぶ力」「考える力」「表現する力」「行動する力」と「生涯学び続ける力」を身に付け、進路を獲得して、21世紀をたくましく生き抜き、自立した人間として社会に貢献できる人		

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）		
<p>【学習指導】</p> <p>○本校で育てたい生徒像実現に向けた授業改善への取組をさらに進める。</p> <p>○基礎学力の充実を図るとともに、生徒の主体性を育てる授業展開の在り方について研修に努める。</p> <p>○動画学習を全校で効果的に活用し、朝学や家庭学習の充実を図り、学力向上につなげる。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○開発的・予防的生徒指導を推進し、規範意識の醸成やいじめの未然防止をめざす。</p> <p>○規範意識の必要性や理解、醸成を粘り強く、全教員の意識を高めて継続的に、生徒に指導していく。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○適切な進路情報の提供とともに、個人面談等、個に応じた進路指導を行い、満足度の高い進路決定を目指す。</p> <p>【保健・安全指導】</p> <p>○清掃活動（ボランティア活動を含む）の強化・校内外の施設整備を進める。</p> <p>【学校運営、特色ある学校づくり】</p> <p>○キャリア教育推進リーダーが機能し、取組の意義や目的が担当教員に理解された上で、3年間を見通した計画的・系統的な取組を進める。</p> <p>○コミュニティ・スクールを導入し、社会や地域に学校を開いて連携を進め、本校教育活動に生かす。</p> <p>○地域とのつながりを一層強化し、学校の良さを発信する。</p> <p>【業務改善】</p> <p>○業務の効率化を進め、教員が本来担うべき教育活動の質をより一層向上させる。</p> <p>○取り組むべき課題に応じたプロジェクトチームを組織するなどにより意思決定を迅速化し、改革のスピードアップを図る。</p>		

3 平成30年度 教職員の行動指針		
<p>○生徒の考える力を育てる</p> <p>○十分な意見交換を経た合意形成を図る ～教職員一人ひとりが学校運営の担い手に～</p>		

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	学習意欲を醸成し、基礎・基本の定着と活用する力を育成し、表現する力や行動する力を向上させる指導	主体的・対話的で深い学びを目標とし、授業の中に研究発表等の要素を取り入れるなど、自ら表現し行動する姿勢を身に付けさせる。	4：十分な取組ができた。 3：ほぼ取り組むことができた。 2：取組が不十分であった 1：取組ができなかった。	3	授業担当者ごとに、アクティブ・ラーニングを意識した取組（グループワークの導入など）や、生徒の主体性を引き出す工夫（発表活動などを凝らすなど、取組に一定の成果が見られた。生徒の学びの深化という観点からは、なお指導の質の向上に努めることが必要である。	授業での発表活動などの成果が、課題研究やライフプランの素晴らしい発表に表れていた。	3
		計画的な研修によって授業力の向上を図り、時代の変化や社会の進展に対応する。学力向上に向けたICTの活用を研究する。	4：十分な取組ができた。 3：ほぼ取り組むことができた。 2：取組が不十分であった 1：取組ができなかった。	2	今年度、事後の協議を伴う研究授業を11回行った一方、授業相互研修週間の取組については十分ではなかった。研修の在り方については、学校全体として計画的なものとなるよう工夫・改善が必要である。ICTの活用について、なお一層の研鑽が必要である。		
生徒指導	多様性の中で自他を認め、他者と自分を尊重できる力を養う。	総合学科の多様な選択のための指導を通して、自己肯定感を高め、他者を認め尊重する力が身につく指導体制をつくる。	4：十分な取組ができた。 3：ほぼ取り組むことができた。 2：取組が不十分であった 1：取組ができなかった。	3	授業や学校行事、掃除や部活動等の学校生活全般において、年次主任や担任を中心に、一人ひとりを大切にする教育を行った。このことにより、自己肯定感が高まり、他者を認め尊重する力が身についてきている。	校外での生徒の様子はおおむねよいが、自転車のマナーについては指導を要する場面が見受けられる。	3
	生命の大切さを理解し、いじめについて考え、いじめ防止に取り組む。	いじめ対策委員会を活性化し、いじめアンケートや個人面談等を通して、いじめの未然防止を図る。	4：十分な取組ができた。 3：ほぼ取り組むことができた。 2：取組が不十分であった 1：取組ができなかった。	3	いじめアンケートにより確認できたいじめに対して、担任、年次主任を中心に対応した。また、いじめ対策委員会において、いじめの未然防止及び認知できた個々のケースに対して具体的にどう対応すべきかを検討した。		
	ルールや規範の意義を理解し、自主的な規範意識の醸成を図る。	岩国総合高校生としての誇りを持ち、規範意識を高め、その必要性を主体的に認識することができる環境を作る。	4：十分な取組ができた。 3：ほぼ取り組むことができた。 2：取組が不十分であった 1：取組ができなかった。	3	頭髪服装指導や全校集会等を通じて、あるいは学校生活のあらゆる場面で規範意識を高めるための指導を行い、概ね落ち着いているものの、一部の生徒にルールが徹底できていない。		

進路指導	主体的に進路実現を目指す態度を育てる	それぞれの年次に応じた、進路指導・相談やガイダンス等を行う。	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	大学や専門学校担当者を学校に招いて行う「進路ガイダンス」を年間2回行ったほか、外部の進路ガイダンスに2年次生全員が参加するなど、進路実現に向けた意識付けを行った。また特に3年次生については個別の進路相談の充実を図ることができた。	生徒一人ひとりの多様なニーズに対応しながら、進路実現に成果をあげている。	3
	受験に対する意識を高める	模試前後の指導、小論文指導、面接指導など生徒に応じた指導を行う。	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	学力テストごとに、事前・事後の課外指導を行い学力の向上を図った。また、進学・就職の面接対策の指導や小論文対策の指導については、生徒一人一人の力や特長に合わせてながら、個に対応した指導の徹底により、成果を上げることができた。		
保健・安全指導	体力・健康の維持及び向上	規則正しい生活習慣（学校生活・家庭生活）を確立させる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	夏の熱中症予防対策や、冬のインフルエンザ予防対策など、時期に応じた予防法の周知と注意喚起を行うとともに、生徒会保健委員会生徒による保健だよりの発行などの活動を通して、健康管理を自分のこととして捉えられるよう促した。	インフルエンザの罹患が他校に比べて少ないこと、検診後の治療率が高いことなど、よく努力している。	4
	環境教育の充実を図る	清掃活動への積極的な取り組みを行い、学校全体の環境美化に努める。（月末大掃除ボランティア活動を含む）	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	清掃活動については、開始時間や取組の姿勢にばらつきが見られる。一方、ボランティア活動について積極的に取り組む生徒が多い。		
	防災教育の充実を図る	毎月の点検や防災訓練を通じて防災への意識を高め実生活に生かす。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	毎月の安全点検については完全実施した。本年度初めて、日時や内容を予告しない防災訓練（地震想定及び火災想定各1回）を2回実施した（年度内に3回目を予定）。		
各年次	1年次→基礎学力を向上させ、主体的に学習に取り組む姿勢と習慣をつくる。	動画学習を活用することにより、基礎学力を向上させ、何事に対しても主体的に取り組む姿勢を確立させる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	動画学習に積極的に取り組むことにより、学力伸長につとめた。毎週、週間学習計画表を提出させることにより、主体的に取り組む姿勢を確立させることに取り組んだ。産業社会と人間では講演会を多く開くことにより、自らの人生を創造していく時間とした。	基礎学力や学習習慣確立、基本的生活習慣の確立、主権者としての社会的関心を高めること、いずれも大切なことであるが、成果が上がっている。	4
	2年次→自ら考え自ら動く力の育成	・基本的生活習慣を確立させる。 ・常にTPOを意識させる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	1年次から、時間を守ること、TPOにあわせた言動や服装を特に重視した指導を継続しており、校内での儀式や集会だけでなく、修学旅行などにもその成果があらわれている。		
	3年次→主権者として生きる素地の確立	社会的関心を高め、問題意識をもとに考察することで、次代を担う者としての自覚を高めさせる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	課題意識の醸成と複眼的見方の形成に関しては達成できたが、その関心を主権者としてのそれにも高めるためには、学校はもちろん社会全体の意識の向上を私たち教職員が主体的に求める風を構築することが肝要である。		
特色づくり	前例にとらわれず、新しい企画を考案し、魅力ある学校をつくる。	総合学科の特色を生かしたキャリア教育を推進する（動画学習を含む）。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	キャリア教育の系統性を重視し、2年次総合的な学習の時間の内容を、3年次課題研究への接続を意識した内容に改めた。動画学習の組織的な取組が今後の課題である。	総合祭や体育祭など、生徒会行事はどれも素晴らしいものであった。高く評価できる。	4
		生徒が主体的に考え、行動できる特別活動を仕組む。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	4	生徒会行事は企画の段階から生徒が主体的に考え、生徒主体の行事運営ができた。		
学校運営	新設の総務課を中心とした、各課相互連携体制の構築	円滑な学校行事の運営のために今までの業務の洗い直しと、新たな業務の改善を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	昨年度行事日程を大きく変更したため、今年度は前年度の日程を基本に調整を行った。今年度の課題を整理し、授業時間の確保や教職員の業務改善の観点も含めながら、来年度の学校行事の検討を行っている。	概ね適切に運営されている。	3
		学校行事、PTA等、年間行事を円滑に立案、計画し実行する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	今年度から運営委員会の定例開催をやめたが、原案作成前の素案の職員会議への提示や、分掌・年次間の事前調整により、大きな問題はなかった。		
		円滑な情報共有のために、文書ファイル形式の更新を進める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	文書のファイル形式の変更を半数以上のファイルで行った。来年度以降も段階的に進め、業務の円滑な引継ぎと、情報共有を進めていきたい。		
業務改善	会議の効率化による学校課題への迅速な対応	協議内容の十分な事前調整や必要に応じたPT等の活用により、職員会議、運営委員会等を予定時刻どおりに終了させる。	4: 80%以上達成できた。 3: 50～80%達成できた。 2: 20～50%達成できた。 1: 20%以下であった。	2	職員会議が予定時間以前に終了したのは14回中3回(21.4%)であった。職員会議の会議時間は昨年度より平均12分短縮した。運営委員会の回数を大幅に削減(12回→7回)し、会議全体の時間を削減した。	教職員の働き方改革に向け、引き続き取り組んでもらいたい。	3
	時間外業務時間の削減	時間外業務時間を前年度比10%以上削減する。	4: 10%以上削減ができた。 3: 5～10%削減できた。 2: 0～5%削減できた。 1: 削減できなかった。	4	時間外業務時間は、昨年度比の平均で10.1%減少した。しかしながら、時間外業務時間が月平均80時間を超える教員が依然として7名おり、引き続き業務時間の削減に取り組む必要がある。		

5 学校評価総括（取組の成果と課題）

- 学習指導については、あらゆる教科・科目や領域で、グループワークやディスカッションなどを授業展開に取り入れ、「まとめて伝える」こと、さらには「他者の意見を踏まえて考える」学習活動を通して、本校の育てたい生徒像にある「学ぶ力」「考える力」「表現する力」の育成を図ることができた。今後、研究授業だけでなく、相互に授業研究を行う機会を充実させることで、教科間・授業担当者間での取り組みの共有をはかっていきたい。
- 「体育祭」や「総合祭」をはじめとする生徒会行事だけでなく、「プレゼンテーションステージ(課題研究発表会)」「ライフプラン発表会」などにおける生徒の自主企画・自主運営や、ボランティア活動への自主的参加を通して、他者の違いを認め尊重する態度が育っている。今後は、こうした活動を通してルールや規範を主体的に守ろうとする態度を養っていきたい。
- 生徒の進学・就職に向けた指導については、大学や専門学校の「進路ガイダンス」の実施等により、生徒のより具体的な進路選択を促した。各生徒の適性を踏まえた的確な進路選択に向け、個別面談をより早期に行う必要がある。
- 学校運営においては、今年度、学校運営組織（校務分掌）の再編を行い、特定の課への業務の集中が緩和された。一方、結果として一つの業務を担当する人数が昨年度と比較して減少したところもあり、時期による業務の繁忙に対応しにくかった面がある。特定の繁忙期への対応に向け、来年度分掌間の連携体制を見直していくことが課題である。
- 教員の働き方改革への取組については、各月とも最近三年間で最も平均時間外業務時間が少なくなっており、一定の成果があった。一方、月平均80時間を超えるなどの長時間業務については、特に部活動運営の改善など、教員の共通認識のもとでさらに取り組んでいく必要がある。

6 次年度への改善策

- 基礎学力の向上に向け、動画学習と対応させた学習課題により、家庭学習習慣の定着を図る。
- 「学ぶ力」「考える力」「表現する力」の育成に向けた授業展開の工夫やICTの効果的な活用に向け、教科間・授業担当者間での取組や授業技術の共有を図る。
- 1年次からのキャリア教育の取組による成果を、早い段階で具体的な学校選択や企業選択に結びつけることができるよう、より早い段階での個別相談等を取り入れる。
- 十分な協議時間を確保しながら、迅速な意思決定と業務改善を両立させるため、校務分掌や年次間の連携を強化し、事前調整を十分に行う。
- 教員の働き方改革に向けて、各課の役割分担の修正・見直しや事務処理・会議の効率化をさらに進めるとともに、授業研究による担当者間の教材の共有や部活動運営の改善など、教員の本来業務である教育活動の効果を上げながら、効率化の視点で改善を図る。